

「練習は不可能を可能にす」
—偏差値10アップ実現のために—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q 「練習は不可能を可能にす」とは、どういうことですか。

A (林明夫。以下省略)慶應義塾長を昭和8年から昭和22年までお務めになった小泉信三先生のお書きになった本の題名が、「練習は不可能を可能にす」です。平成16年4月に慶応義塾大学出版会から発行されたものです。「無数の不可能が練習によって可能となる。練習によって我々は不可能を可能にする。」この真理を体育会の生活つまりスポーツによって身に付けることの大切さを、小泉先生はこの本で訴えておられるものと思います。

皆様も本屋さんでこの本をお探しになり、お手元において是非ゆっくりお読みになることをお勧めします。スポーツの素晴らしさ、スポーツマンシップとは何かが分かりやすく書かれています。

Q 「練習は不可能を可能にす」と偏差値10アップの実現はどう関係するのですか。

A 私にはスポーツも勉強も同じように思えます。短距離を専門とする男子の陸上部員にとって100メートルを15秒で走ることはあたりまえかも知れませんが、全く練習しない人にとってそれはほとんど不可能です。なぜ短距離ランナーが100メートルを15秒で楽に走れるかと言えば、練習に練習を重ねてきたからであります。

同様に、実力試験である一定以上の偏差値を取ることは、とても厳しいことです。高い偏差値が取れるのは、それなりの勉強を積み重ねてきたからです。練習に練習を積み重ねた人だけが15秒で走れる100メートル走と同じで、勉強に勉強を積み重ねた人だけが高い偏差値を取ることができます。

よく練習を積み重ねればよいタイムが出るのと同様に、よく勉強をし続ければ、テストの成績つまり偏差値は必ず上がります。

特に、偏差値60以下の人は、練習をしていないのと同じですから、基礎的な勉強を積み重ねるだけで確実に偏差値60は実現します。

Q 勉強を積み重ねるだけで偏差値60以上になるのですか。本当ですか。

A 「うん、なるほど。」と一度「理解」した内容を、何も見ないでスラスラ口をついて言え、何も見ないで正確に書けるようになり、簡単な問題なら考えなくても条件反射的に解答が出せる、つまり「定着」のための作業をコツコツ積み重ねれば偏差値60は取れます。

この定着のための作業には膨大な時間がかかります。

Q 偏差値60は何を意味するのですか。

A 進学できる学校が驚くほど増え、皆様の人生の選択肢が一気に広がることを意味します。自由に生きたければ、「定着」のための作業を積み重ね、偏差値60の壁を突破することです。

Q 偏差値60以上を目指すには、どうしたらいいのですか。

A 15秒以内で100メートルを走る陸上部員が基礎体力をつけながら、自分のフォームを直しつつ試合経験を積むように、偏差値60以上を目指す人は、実力試験や模擬試験の結果のうち、間違えた問題を自分で分析し、なぜ間違えたのかその理由を明らかにすることです。「理解」不足なら、その内容をもう一度教科書や参考書で読み、「うん、なるほど。」と納得することです。どうしても納得できなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問してください。分かってはいる、つまり「理解」はできているが、うろ覚えであったり、正確に書けない、ケアレスミスをしたというのであれば、「定着」のための作業をコツコツすることです。「理解」と「定着」はできているのだが、「応用力」不足の場合は、まずはやさしい「応用問題」から入り、少しずつ難易度を上げていくのが最善です。

偏差値 60 以上の科目は、100 メートルを 15 秒内で楽に走れる陸上部員と同じように、自分自身の強みと改善点を知った上で、毎日タイムを計り、14 秒、13 秒、12 秒と 1 秒ごとの壁を破っていくような勉強方法が必要です。本番の前に対外試合もいくつか体験し、反省材料にすることも欠かせません。

Q スポーツと勉強は似ているのですね。

A はい。部活動だと思って受験勉強に励むことを私はお勧めします。

スポーツでは、地区大会で入賞し、県大会に参加することは難しいですが、入学試験は1つの学校に何百人も合格するので、確実に偏差値を上げさえすれば必ず合格します。

「練習は不可能を可能にす」。この言葉を胸に自分自身を励ましなが、偏差値10アップを目指しましょう。では、頑張ってください。

家庭で勉強できない人は、先生の許可を得て、開倫塾の「自習室(空いている教室)」で「自己学習」することをお勧めします。無料です。ただし、おしゃべりや携帯電話使用は絶対禁止です。